新型コロナ (Covid-19) の感染と米食の相関分析

株式会社ライステック 代表取締役飯沼一元 2022/1/25

新型コロナ (Covid-19) では IT の普及により人類史上初めて地球規模での疫学統計データが集計された。その結果、欧米の感染者数はアジアの 10 倍以上も多いことが明らかになった。何故このような大差がついたのか? キス/マスクをはじめとする生活スタイルの違いなどの定性的な説明やミクロ医学的視点からの研究はあるが、マクロ統計的観点からの研究は皆無である。

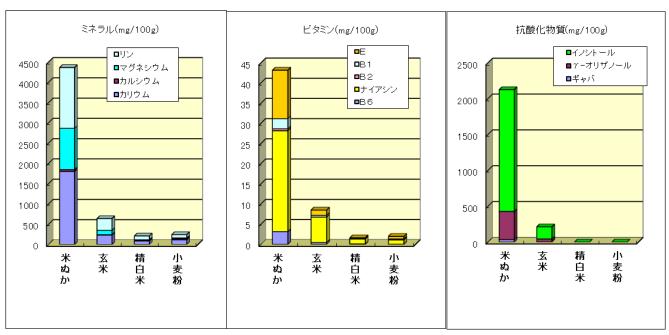
筆者らは「**医食同源**」という健康の規範に則り、「主食」と「感染」の相関を統計分析し、 **感染者数は米消費量と強い負の相関を示す**ことを明らかにした.つまり、欧米の主食は麦、アジアの主食 は米という主食の違いが、10 倍以上の大差を生んだ原因であることを突き止めた。

一方、**玄米食者は腸内細菌が良く、腸内細菌が良いと免疫能が高まる**ことが知られていることから、米食者の方が自然免疫能が高くなるために、感染耐性が高まるという因果関係が示唆される。

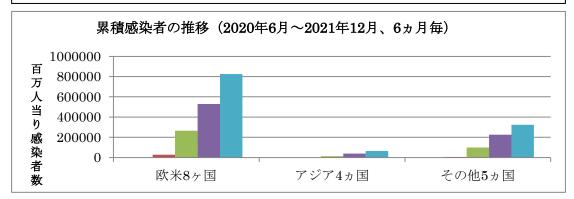
コロナ感染は拡大を続けており、この2年間で世界の感染者数は大幅に増加した。そこで、

今般上記統計の経年変化を 2020 年 6 月から 6 ヶ月毎に 2 年間比較し、あらためて仮説の検証を試みた。 その結果、世界の主要 17 ヵ国(総人口 29 億人、世界人口の 38%)に対して、100 万人あたり<mark>感染者数</mark>の決定係数 R2 は 2020 年 6 月 0.58、12 月 0,73、2021 年 6 月 0.68、12 月 0.69、2021 年 1~12 月の 1年間では 0.59 となった。また、死者数に対する決定係数 R2 は 2020 年 6 月 0.58、12 月 0.76、2021 年 6 月 0.76、12 月 0.72、2021 年 1~12 月の 1年間では 0.60 となり、変異株の盛衰に影響されることなく米消費量に対して強い負の相関を維持していることが判明した。これは米食が自然免疫能を高めているためと考えられる。 なお、年間米消費量は 1960 年~2019 年の 60 年間の平均値を採用した。

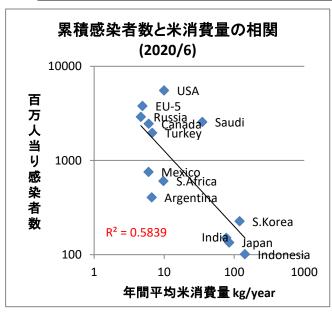
また、米食に関しては、玄米の機能性栄養素は下表に示すように米ぬかに 90%以上含まれている。 17 ヵ国は、欧米 8 (英、仏、伊、西、独、米、露、加)、アジア 4 (日、韓、印、インドネシア)、その他 5 (アルゼンチン、メキシコ、南ア、トルコ、サウジアラビア)。EU-5 は英、仏、伊、西、独を集合。

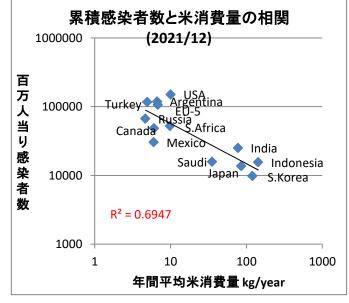


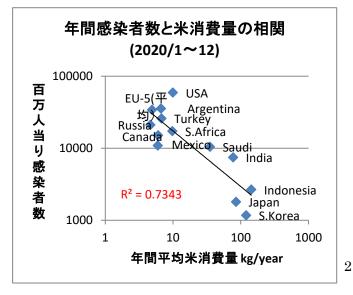
感染者数と米消費量の相関 2020 年 6 月~2021 年 12 月比較

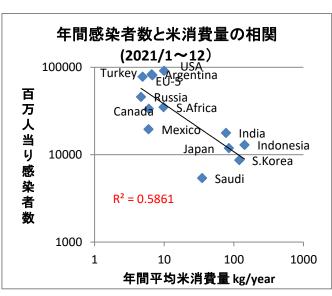


100万人当り感染者数	2020年6月	2020年12月	2021年6月	2021年12月	2021/1~12
欧米8ヶ国	28492	265483	529818	824571	559088
アジア4ヵ国	612	13046	38603	64172	51126
その他5ヵ国	6283	99786	224964	323242	223457
合計	35387	378315	793385	1211986	833671
相関決定係数R2	0.59	0.73	0.68	0.69	0.59
欧米8ヶ国/日本	212	148	85	60	47
欧米8ヶ国/アジア4ヵ国	47	20	14	13	11

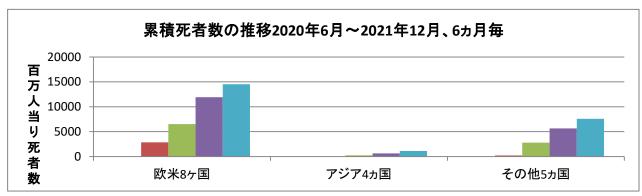








死者数と米消費量の相関 2020 年 6 月~2021 年 12 月比較



100万人当り死者数	2020年6月	2020年12月	2021年6月	2021年12月	2021/1~12
欧米8ヶ国	2840	6519	11909	14524	8005
アジア4ヵ国	23	229	644	1097	868
その他5ヵ国	197	2797	5633	7587	4790
合計	3060	9546	18186	23209	13663
相関決定係数R2	0.58	0.76	0.76	0.72	0.60
欧米8ヶ国/日本	396	258	104	100	67
欧米8ヶ国/アジア4ヵ国	121	28	18	13	9

